



題字(故)林 邑一

第34号

平成15年1月1日  
阿品台地区  
コミュニティをすすめる会  
阿品台公民館  
(TEL39-4338)  
阿品台地区人口世帯数  
平成14年12月1日現在  
人口 男 4,773人  
10,225人 女 5,452人  
世帯数 3,557世帯  
高齢化率 12.9%  
(市15.3)

年頭挨拶

回顧と展望

阿品台地区コミュニティをすすめる会

会長 山本 治喜

新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

阿品台に移り住んで古い方は二十五年になるでしょうか。私も二十四年を迎えます。

素晴らしい廿日市ニュータウンとして、広島県、廿日市町のご好意により建設された広島県の西の都に相応しい団地です。現在三、五〇〇世帯、一万五〇〇人の方が住んで居られます。そして保育園、幼稚園、小、中、高等学校さらに日赤看護大学まで、加えて社会教育施設として公民館、各地区の集会所が整備されています。また、地区内には公園も点在し環境も申し分なく、その上、小児科、内科、外科、歯科、眼科と薬局等の医療機関も多く、生活に不可欠のスーパーや商店もあり私どもに安心感を与えてくれる

居住環境です。

交通面では、JR山陽本線阿品駅、広電バス、街中を走るさくらバスと誠に便利な町に生まれ変わりました。

私どものコミュニティは、昭和五十六年に地御前コミュニティ推進協議会から分離独立し、ささやかに活動を開始しました。爾来、住民の方々の絶大な支援と協力、そして役員の本気で献身的な活動により今日を迎えました。この間、コミュニティの具体的な成功例としてJR阿品駅の設置が挙げられます。勿論市当局の支援があったことは言うまでもありません。

一口に二十年と申しますが働き盛りの五十歳で居住を始めた方は今は七十歳です。六十歳の方は八十歳です。十代の小、中学校

の児童、生徒であった人は三十歳以上となりその多くの方はよそに住んでいるのが現状です。

つまり、今の阿品台は高齢化の真つ只中にあるということです。現在のコミュニティをすすめる会は福祉部、文化部、婦人部、体育部、青少年部から成っており、それぞれに年度計画を立てて各位の協力で運営されています。廿日市のコミュニティ推進計画に沿って阿品台の各種団体、学校等とも密接に連携しながら活動し諸事業が円滑に実施されている点は心強い限りであります。

三年前から交流している日赤看護大学とも福祉の面で相互協力が進み、阿品アカデミーも着実に進められている現状にあります。また、従来の事業についても改革し、改善を重ね、さらなる成果を期待するものです。

一方、永年会社勤務や公務を終え、引退された方々には会をより一層活性化するために、是非とも積極的な活動支援をお願いするものであります。何事にも前向きに、近所の方々とも協力し合いコミュニティの推進に努力していただきたいと祈念しています。

今年が阿品台地区コミュニティをすすめる会と地区住民の皆様方にとって、さらに良い年であることを念じながらご挨拶とします。

くも雲 彩

今年のNHKの大河ドラマは、「MUSASHI」。武蔵といえは吉川英治。いや『バカボン』だ。実はこれ井上雄彦作の二千万部以上売れている漫画で、アジア各国で翻訳もされている。マンガという視覚表現からのヒット作だ。

片や吉川英治の『宮本武蔵』は、昭和十年八月より朝日新聞に連載された新聞小説。二百回で終わる予定であったが、軍国主義という時代と呼応し、熱狂的に読まれ千十三回、昭和十四年七月まで連載された。各国語版で百万部以上売れた海外で最も読まれている日本文学作品の一つだ。

天下無双を目指した流浪の剣士「武蔵」今年の「MUSASHI」はどのように描かれるのだろうか？  
過ぎ去りし歴史と観るか。  
自身と照らし合わせて見るか。  
未来に思いを馳せて見るか。  
前述の作品を読んでみるか。  
さて、あなたは・・・？  
武蔵に負けぬ夢多き一年としていきたいものだ。



# 各部の活動



## 青少年部



🐼 子ども 料理教室 🐼

11月9日(土) 阿品台公民館



🐼 少年少女ドッジボール大会 🐼

11月10日(日) 阿品台東小学校体育館

優勝「Aチーム 5丁目・5丁目上・わかば・ひまわり合同チーム」



## 体育部



## 福祉部



🐼 グラウンドゴルフ大会 🐼

11月10日(日) 阿品台東小学校グラウンド

「2丁目の浅野さん」が優勝

### 阿品台の福祉力

を高めよう

〜地区社協づくりを目指して〜

福祉部長 熊谷 美智也

町づくり二十年、阿品台も成熟した町になりました。町内会によっては高齢化率三十パーセントのところもあります。その分、お年寄りの散歩姿やグラウンドゴルフに落ち着きを感じます。

人は加齢とともに歯は欠け目は弱り、障害者になっていきますが、入歯やメガネなどによってしのぎます。

# 2002 写真で見る

## 婦人部



お正月用アレンジメント  
12月2日(月) 阿品台公民館



グリーティングカード制作教室  
11月22日(金) 阿品台公民館

## 文化部



家庭で出来るM応用講座(PART2)

11月9日(土) 阿品台公民館において、地球にやさしいEM石鹸作りが竹内 育枝、平本 道子の二先生の指導で行なわれた。

### ソフトボール大会

11月10日(日)

阿品台東小学校グラウンド  
優勝「タウンEチーム」



このように自分でできることは自分でやってみよう、これが「自助」です。また、人はおしゃべりがしたい、何か人の役に立ちたいと思うことがあります。お互いに支えあおうとする心、つまり、「互助」なのです。「ふれあいサロン」や「つどい」がこれです。これを土台にして、もっとも「互助」の輪を拡げよう、というのが福祉部の目指す地区社協づくりなのです。

## 「ごみの出し方大丈夫？」

昨年十一月より「指定ごみ袋」と大型ごみの有料化」が始まりました。現状はどうでしょう。収集所を回ってみました。



黒いごみ袋は1月まで使用できるのでまだ沢山出ています。



取り残された物も多く、役員・清掃当番の負担も増えています。

### ☆町内会では

各町内会では、周知徹底を図ると共に色々な取り組みがされています。

- \* 収集日に役員が立ち、注意を呼びかける。
- \* 町内紙で呼びかける。
- \* 間違って出された物を分別し、収集してもらえようにする。
- \* 貼り紙等で間違って出したことが解るようにし、再度収集日に出してもらえようにする。
- \* 袋に記名をして出す。

### ☆環境政策課に聞きました。

半透明の指定ごみ袋の導入により中の物が見分けやすくなりました。

よく間違えられるのは、次のものです

- \* 「ビン・缶類」と「プラスチック類」は別々の袋で出す。
- \* 「廿日市市」「認定番号」等の印刷されていないレジ袋は、白色の指定袋ごみ袋として使えない。
- \* 認定されたレジ袋でも、緑色の指定袋（小型ごみ及び複雑ごみ）として使えない。
- \* 蛍光管はひもで束ねて出す。

## 「これどうするの？」

— 愛ちゃん、お母さんのQ&A —

「いちこのパックなど透明トレー」はどんなものが、資源ごみとして出せるの？

果物などが入っているもの、お弁当の蓋なども大丈夫よ。シールははがしてね。目印は  のマークよ。

厚揚げの入った豆腐のトレイもいいの？

油で汚れたものは資源ごみでは集めないの。注意してね。

小さな布類もひもで束ねて出すのかな？

大きな布で包んでからひもで束ねるのよ。下着・ネクタイ・靴下などは、燃えるごみの日に出すのよ。

二月から「指定ごみ袋」のみの収集になるね。

ルールをしっかり守って出しましょうね。

## ごみ雑感

人は、ごみを出さずに生活することはできないのか？

毎日排出される大量のごみを見ていると、そんな質問を何者かにつけてみたくなります。

その何者とは「文明」？

便利に、速く、華美に…

そんな私達の生活の方向の行き先は「ごみ問題」だったので。「ごみ問題」は単にごみだけの問題ではなく、私達の生き方を変えなさいという警鐘のように思います。

ある自治体では「530運動」が市をあげて繰り広げられています。

一人ひとりがごみの出し方を守り、気持ちの良い、住みやすい街づくりを推進していきましょう。

### お詫びと訂正

前34号は33号の誤りでした。したがって本号が34号となります。お詫びして訂正致します。

## ミニコミ誌のごみの記事への苦言

阿品台地区コミュニティーをすすめる会が発行する『ふれあい』に、「ごみの出し方大丈夫？」と題した記事があります。個人的な見解を個別に町内会の回覧に載せるべきではないと思いますが、記事はごみの分別を混乱させるものであり、先に『資源ごみについて』『間違いやすいごみとごみの出し方』のチラシを作成した者としては看過できないので、記事の誤りを指摘し、併せてごみの分別の指導の在り方に苦言を呈することにいたします。

3ページ目  
必見  
ねがいます。

●記事は、「いちごのパックなど透明トレイはどんなものが、資源ごみとして出せますか」と設問し、「果物などが入っているもの、お弁当の蓋などもそう、目印は“プラ”のマークです」と答えています。

先ず言えることは、市が配布した『正しい分け方』のポスターでは“いちご（透明）などの容器”としていますが、記事はこれを“いちごのパックなど（の）透明トレイ”と言い換えています（トレイとは形状が浅い皿状の容器を言いますので、ここでの“トレイ”は“プラスチック容器”とする方が妥当でしょう）。このように書きますと、これを読んだ人は、“いちごのパックなどの”という前置きを忘れて、「透明トレイ（透明プラスチック容器）は資源ごみなんだ」と真っ先に頭に入れてしまいます。このように先入観を与えてしまうことは、ごみの分別にとって非常に有害です。

実はごみのトラブルの大半は、プラスチックごみの混乱にあります。プラスチック容器は必ずしも“資源ごみ”ではないのに、「プラスチック容器は“資源ごみ”」と思い込んでいることが、その主要な原因だと思われます。この思い込みは、誰もが持つ自然な先入観だと言えます。この記事を書いた人も気付かずに同じ発想に陥っているのです。如何に先入観から離れたところで正しい知識を身に付けるかが、ごみ分別のポイントだと言えます。

記事は「果物などが入っているもの」と答えていますが、これは「いちごなどの果物が入っているもの」と言い換えてもよいでしょう。つまり、いちごなどの果物パックが“資源ごみ”になるというわけです。このように、透明プラスチック容器で“資源ごみ”になるのは、僅かな種類に限られていることが分かりますが、それでも先の先入観によって、「透明プラスチック容器は“資源ごみ”」と誤って拡大解釈する人が多いのです。

そこで更に、「プラスチック容器（プラスチックごみ）で“資源ごみ”になるのは、500ml以下のペットボトル、裏表ともに白色の発泡トレイ、豆

腐パック、いちご（などの果物）パック、卵パック、プリン・ヨーグルトのカップ、乳酸菌飲料の容器だけに限られる（そう言い切っても大きな間違いはありません）」と説明しておけば、先の拡大解釈を少なからず防ぐことができるのです。このように全体の背景まで説明をして、初めて正しいごみの分別の知識が理解されるのです。

また記事は、「お弁当の蓋などもそう」としていますが、これも誤ったごみの分別を招きます。これを読んだ人は、「蓋」ということを忘れて、「弁当の容器は資源ごみなんだ」と頭に入れてしまうからです。弁当の容器本体は“燃やせるごみ”ですから、“資源ごみ”の日に出しては誤りです。弁当の蓋は、弁当の容器本体と同様に“燃やせるごみ”としておけば、混乱を招くこともないのです。“燃やせるごみ”とすることは再生資源の拡大に逆行するとの非難は当たりません。再生資源を拡大する方策は他にもたくさんあるからです。また記事が後で、「油で汚れたものは資源ごみにならない」としていながら、油で汚れているのが普通の弁当の蓋を“資源ごみ”にするのは、矛盾と言うものです。このような無意味で無益な例外の事例を出来るだけ少なくすることが、ごみ分別の混乱を少なくするポイントだと言えます。

尚、記事が、「（資源ごみの）目印は“プラ”のマークです」としているのは、大間違いです。このように書くと、「“プラ”のマークがあるものは、すべて“資源ごみ”」とする誤った先入観を与えます。「プラ」のマークが表示されていても、“資源ごみ”になるとは限らないのです。正確に言えば、容器包装リサイクル法に言う資源ごみに違いありませんが、“資源ごみ”として市が収集するとは限らない、ということです。

●記事は、「厚揚げの入った豆腐のトレーもいいの？」と設問し、「油で汚れたものは資源ごみでは集めない」と答えています。油で汚れたものは、“燃やせるごみ”になることは確かです。たとえば食用油のペットボトルも、“資源ごみ”ではなくて“燃やせるごみ”です。但し、いずれも洗浄して油をきれいに除去すれば“資源ごみ”になります。しかし、完全に除去されないことを想定して、或いは家庭での洗浄の手間を配慮して、“燃やせるごみ”としているのです。これが正しい答え方です。さることながら、「厚揚げの入った容器は、“豆腐パック”に該当しないので、“資源ごみ”ではない」と答えてもそれで十分だと私は思います。問い掛けに応じていたずらに間口を広げることは、曖昧さに通じて、ごみの分別が混乱すると思うからです。

●記事は、「下着・ネクタイ・靴下などは、燃えるごみの日に出す」とし

ていますが、下着、ネクタイ、靴下を“燃やせるごみ”とするのは、正しくありません。下着、ネクタイ、靴下は、当然布類に該当し、いずれも“資源ごみ”です。小物だから“燃やせるごみ”になるということではありません。もしも「下着などは恥ずかしいので、“燃やせるごみ”として出したい」という要望に応えたいのであれば、“資源ごみ”のままにしておいて、「下着、ネクタイ、靴下は、“燃やせるごみ”として出してもかまわない」とすればよいのです（しかし皆さんは、不都合なものは“燃やせるごみ”として出しているでしょうから、わざわざこのように断ることもないでしょう）。

現実に清掃センターが“資源ごみ”として受け入れているのに、“資源ごみ”ではないとする合理的な理由があるのでしょうか。その根拠が希薄なままに曖昧な妥協の結果として、例外をつくるのは良くありません。例外の事例が多くなればなるほど、ごみの分別に混乱を招きます。合理的な理由がない限り、下着、ネクタイ、靴下は、例外的な扱いにはしてはいけないのです。

もし合理的な理由があるのであれば、その理由を述べた上で、そのように断るべきでしょう。私たちは、理由を理解して初めて納得が生まれ、そうすることによって、正しいごみの分別の知識が、確かなものとして記憶されるのではないのでしょうか。記憶力が優れた人ばかりではないのです。お年寄りも多いのです。何かを拠り所にしないと記憶できないのが普通の人です。

ごみの分別で混乱する人が多いのは、理由や背景を示さずにただ記憶することを求める指導の在り方にも、原因の一端があるのではないのでしょうか。

●記事には関係ませんが、緑色の指定袋に「袋に入らないものは、大型ごみ（有料）です」と印刷されています。しかしこれは正しくありません。正しくは、「緑色の指定袋に入っても、最大長さが30cm以上であれば、“小型および複雑ごみ”ではなく、大型ごみ（有料）になります」ということなのです。大型ごみの有料を嫌って、“小型および複雑ごみ”で出すごみのトラブルが今後増えると思われますので、早急に是正していただきたいと思います。

以上苦言を呈してきましたが、私には市の行政やコミュニティーをすすめる会などを誹謗する意図はなく、私の願いは、ごみのトラブルが解消されることであり、そのために適切な指導をしていただきたい、ということです。間違った情報や指導で混乱して迷惑するのは、私たちだからです。

尚、以上に述べた見解は私個人のものであって、町内会とは関係ないことを改めてお断りしておきます。

（文責：1区3班 島田 稔・平成15年1月27日作成）